

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「就学時健康診断がスタート」

就学時健康診断（就学時健診）の目的は、子どもが安心して小学校生活を始められるように、①身体や発達の状況を事前に把握する、②治療や特別な配慮が必要な子どもを早期に見出す、③学級編成や指導方法を考える際の参考資料とするなどが挙げられます。内容は、内科・眼科・耳鼻科・歯科の健康診断のほかに、視力・聴力・スクリーニング検査（簡易知能検査）があります。今号では、スクリーニング検査にスポットを当てます。

1 スクリーニング検査（所要時間約30分）

5人～8人くらいの小集団で、検査者の指示を聞いて、鉛筆で検査用紙に○を付けていく。指示を最後まで聞いて理解できないと、問題を解くことが難しい。

2 子どもが最後まで話を聞くために必要な力

- ・話す人に注意を向ける力
- ・言語情報をイメージする力
- ・話の内容を理解する力
- ・話の内容を覚えておく力



3 検査者として配慮していること

（1）最初に約束を伝える

できたら鉛筆を置く、困ったときは黙って手を挙げるなど、最初に気を付けることを伝えて確認する。

（2）活動に見通しをもてるようにする

問題ごとにねらいを簡潔に分かりやすく伝える。

（3）話し方に変化を付けて、注意喚起を促す

特に聞いてほしいときは、声の大きさや速さを変えて、注意を向けるきっかけにする。

（4）話し言葉だけでなく、見せて理解を促す

問題用紙が見えやすいようにホワイトボードに貼っている。また、注目してほしい部分分かるように指示棒を使ったり、白紙で隠したりしている。

（5）一人一人に肯定的な注目をする

「楽しい楽しい問題に挑戦してください」、「話を聞くと簡単にできます」とユーモアを交えて話しながら緊張をほぐす。検査中は、アイコンタクトで励ます、ジェスチャーでOKサインを送る、近付いて笑顔で応える、頭を撫でるなど肯定的な注目をする。

検査では、緊張している子ども、落ち着きのない子ども、つい答えを言ってしまう子ども、じっくり考えて答えを導き出す子ども、問題が分からなくて泣きそうになる子ども等、いろいろな表情を見せてくれます。

子どもが思わず聞きたくなる話し方を心掛け、100%の力を引き出したいものです。



とれたて直送便



たった一言が、子どもの人生を変える

八峰町支援員研修会で、「印象に残っている先生は？」というテーマで情報交換をしました。ある支援員の先生のエピソードを紹介します。たまたま校内に展示されていた自分の絵を見た先生が、「細かく描いていて、うまいね」とほめてくれたそうです。その一言がうれしくて自分に自信がもてたと話していました。たった一言が、人生を変える大きな力をもっていることを認識して、子どもに温かい言葉を掛けましょう。